

JCに入会して良かった事



2016年度後期新会員
山畑 和久

私は青年会議所の活動というのを全く知らずに入会しました。最初から徹底した礼儀作法を学び、人に拘る事、自分自身が汗をかく事を学びました。社会に出て経験を積むうちに、凝り固まっていた考え方や常識を根本から壊して、見直し、改めて学んでいく事で自分だけでは気付かなかった事を発見できました。掛けそうになりましたが、私がこの半年の研修期間を乗り越える事ができたのは、同期と切磋琢磨して進んでいったからです。研修期間というのは成長する期間ではなく、気づきや発見する期間です。研修が明けて、これから青年会議所の活動をどう過ごしていくかが青年会議所の醍醐味であり、自分自身が成長できる場だと思いがばります！



2016年度後期新会員
白岩 真人

2016年7月に入会させていただき、入会当初は本当に大変で何度も逃げ出したいくなりましたが研修期間の6ヶ月を経た今、心から思うことは岡山青年会議所に入会させていただき本当に良かったということです。同期で入会したメンバー全員で研修期間を助け合いながら修了していくうちに、お互いのことを理解し同期での友情が徐々に芽生えていく不思議な感覚を持つようになりました。またクリスマス家族会のリーダーという担いをいただき、同期はもちろん会員研修委員会スタッフ方のおかげで、クリスマス家族会を無事に終えることができ、もっと「人のため、家族のため、街のため、社会のため」にJC活動をしていきたいという意欲を持つようになりました。

Junior Chamber International Okayama

公益社団法人岡山青年会議所 入会のご案内



私たち公益社団法人岡山青年会議所は、20歳から40歳までの次世代を担う若きリーダーが集う組織です。交流範囲の様々な人との「出会い」や「学び」、「成長」を繰り返します。地域社会や組織において、より優れたリーダーとなるための切磋琢磨を重ね、より豊かなまちづくりと人づくりを目指します。皆様もぜひ私たちと一緒に岡山青年会議所で、新たな可能性にチャレンジしましょう。

年齢・資格

満20歳以上39歳以下(H7.1.1生～S51.1.1生)の品格のある男女

募集期間

随時募集しております。詳しくは、下記事務局までお電話にてご連絡ください。

入会に際して 必要なものです

- 入会申込書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 履歴書
- 入会誓約書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 入会承諾書
- 作文 題目「岡山JC入会にあたって」※万年筆またはボールペンで、楷書で記入のこと ※700字以上
- 会社謄本 ※資格のみで正業に従事する場合は、資格者証の写し
- 本人の住民票
- 写真 ※縦4cm横3cm 4枚(うち一枚は履歴書に貼付) ※白黒写真ネクタイ着用・スピード写真不可

〈事務局〉

TEL:086-223-0938 FAX:086-225-0500 E-mail:info@jci-okayama.com
〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F

2017年度 岡山JCホームページ・facebook

岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業紹介や会員拡大情報など随時更新しております。お気軽にホームページをご覧ください。

■ ホームページアドレス

<http://www.okjc.org/2017/>



■ facebook

<https://www.facebook.com/okjc.org>



2017年度 広報誌「暖流」新春号 Vol.1

次号は6月発行予定です

■発行日/平成29年1月13日

■発行/公益社団法人岡山青年会議所

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F

TEL:086-223-0938 FAX:086-225-0500

URL <http://www.okjc.org/2017/> E-mail info@jci-okayama.com

■発行責任者/公益社団法人岡山青年会議所

総務・広報委員会 委員長 金沢 竜志

安部 真良 瓶井 深英 田所 敦史 幡山 益聖

白岩 真人 二垣 幸広 馬場 紀行



Junior Chamber International Okayama
公益社団法人 岡山青年会議所



2017
Vol.1

岡山青年会議所 会報誌

暖流

www.okjc.org/2017/



この街が好きだ！

PICK UP

- ・年頭所感
- ・新春特別対談
- ・年間事業予告

2017年度 理事長年頭所感



公益社団法人岡山青年会議所
2017年度 第67代理事長

高見 宣哉



新年あけましておめでとうございます。

私は、2017年度 公益社団法人岡山青年会議所 第67代理事長を務めます高見 宣哉と申します。

1951年、戦後間もなく設立された岡山青年会議所は本年で67年目を迎えました。「経済活動は、人類社会の基盤

であり青年は人類社会発展の原動力であります」と設立時に謳った精神は、現代社会において色褪せるどころか今こそ必要な理のようにさえ感じます。企業の成長を基盤とし、連綿と受け継がれる歴史と伝統を胸に、郷土おかやまに必要とされる「まちづくり団体」として鋭敏で先見的な感覚を持ち、清々しく実直に活動して参ります。

私たちメンバーの多くは、インターネットの普及と時を同じくして社会人として産声をあげました。ITバブルが終焉を迎え、「超氷河期」と呼ばれた時代に就職した私たちは、ますます加速度的に圧縮される時間軸の中で青年期を迎え、上昇する株価とリンクしきれていない地方において青年会議所活動を展開していくことが難しい状況にあります。人口の減少や雇用問題に加えて自然災害といった目に見える不安だけでなく、様々な資源が東京に一極集中し、情報の多様性は留まることなく広がり、シンギュラリティが甚大な影響をもたらすかもしれない、そんな情勢だからこそ、志を共にする「人財」を求め、郷土おかやまのために活動する意義を見出すには、人の繋がりを一層深く醸成すること、そして発信力を高めることが必要だと考えています。

私たちの活動は市民意識の変革を目指しています。「教育県」で名高い岡山県も今は昔、学力の低下だけでなく不登校や少年犯罪の発生率の高さなどの危機的な現状を打破すべく、社会の仕組みを学び、感謝や尊敬の念を育む事業や夢を持つことの大切さを体感できる事業を通じて青少年育成を掲げてまいります。また、私たち青年も、凛とした背中を子どもたちに見せるためにも、より洗練された生き方や考え方を習得し、実践していかなければなりません。そしてそのような活動を効果的に実施することで、「人財」という地域の尊いリソースの向上を目指します。

また、岡山青年会議所のレーゾンデートルを高めていくこと、確固たるものにしていくことは必ずしも独立した活動を意味するわけではないと考えています。明確な目的のもと、拡張性を柔軟に備えて力強い活動を展開し、郷土おかやま発展の原動力となる所存です。

最後になりましたが、関係各位におかれましては公益社団法人岡山青年会議所に今後とも多大なるご支援ご協力をいただきますことを衷心よりお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感



岡山県知事

伊原木 隆太

すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」を目指して

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当たり、岡山青年会議所の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年行われた知事選挙におきまして、皆さまのご信任をいただき、引き続き県政を担わせていただくこととなりました。2期目の県政を担うことができますことは、誠に光栄なことと存じますとともに、改めてその重責に身の引き締まる思いであり、決意新たに新年を迎えました。

私は、これまでの4年間、県民の皆さまの幸せのため、また、県全体の発展のため、「教育県岡山の復活」、「産業の振興」など重点戦略を中心にさまざまな施策を推進してまいりました。

その結果、小学生の学力向上、非行率の半減、企業誘致における投資や新規雇用などの成果が現れ、県民生活のさまざまな分野で、好循環の流れが加速しはじめています。

しかし、県政の基本目標である「生き生き岡山」の実現は道半ばであり、この好循環の流れを一層加速させるため、「教育県岡山の復活」と「産業の振興」を本県発展の好循環のエンジンに、成果が実感できる県政をさらに推し進めてまいり所存です。

また、人口減少問題を克服し、将来にわたって持続的に発展していく、活気あふれる力強い県となるためには、新しい時代の潮流や変化を踏まえ、県、市町村、企業、NPO、大学など多様な主体が、おかやま創生の実現に向け総力を挙げて取り組んでいく必要があります。現在、来年度からの4年間を計画期間とする新たな県政の羅針盤である「新晴れの国おかやま生き生きプラン(仮称)」の策定作業を進めており、皆さまからのご意見を反映させた上で、3月までの策定を目指しています。

皆さまから寄せられた信頼とご期待にお応えするため、新プランを策定した上で、この新たな羅針盤に沿って、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」の実現に全身全霊で取り組み、成果が実感できる1年となるよう全力を尽くしてまいります。

皆さまには一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



岡山市長

大森 雅夫

岡山青年会議所の皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、平素から、岡山市政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年は、夏の「全国高等学校総合体育大会」や秋の「おかやまマラソン」の開催、そして、サッカー・ファジアーノ岡山のJ1昇格に迫る躍進など、岡山のまちがスポーツで大いに盛り上がる1年となりました。

また、初開催となった大型現代アート展「岡山芸術交流」では、目標を大きく上回る約23万4,000人にご来場いただき、非日常の雰囲気を楽しんでいただくとともに、多くの子どもたちに新鮮な驚きを感じてもらうことができました。

こうした多彩な催しを通じて、岡山の魅力を全国に発信することができましたことは、ひとえに、岡山青年会議所の皆様をはじめ、全ての関係者の皆様のご支援とご協力の賜物であり、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、今年の干支である酉年は、「酒」の字に由来する実り多い年とも、「とりこむ」という言葉に由来する商売で縁起の良い年とも言われています。

今年も、夏の「おかやま桃太郎まつり」や秋の「おかやまマラソン」など、まちに賑わいをもたらす多彩なイベントが予定されており、それらと岡山の魅力や強みをいかした観光・産業振興とが相まって、一層勢い溢れる年となることを期待しております。

また、新総合計画の具体的展開を示す前期中期計画の策定や岡山連携中枢都市圏の形成、さらには、懸案となっている待機児童対策や教育改革、公共交通の充実など、市民の幸せと岡山市の将来を見据えた取組を着実に進め、地域の皆様に多くの実りをもたらされるよう力を尽くしてまいり所存です。

皆様方には、政令指定都市・岡山のさらなる飛躍に向けて、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、今年1年のご健勝とご多幸を心から折衷申し上げ、年頭に当たってのご挨拶といたします。

年頭所感



岡山商工会議所
第59代 会頭

岡崎 彬

2017年の新春を迎え、公益社団法人岡山青年会議所の皆様方のご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げますとともに、平素から当所の事業活動につきまして格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、イギリスのEU離脱やトランプ次期米大統領の選出、欧州各国のポピュリズム台頭など、先行きの不透明感が増しつつある状況にあり、わが国も、地方においては、アベノミクスの効果が十分に浸透していない状況にもあります。

そうした中、岡山においては、DESTINATIONキャンペーン、岡山芸術交流2016、おかもやまマラソンなど様々なイベントが開催され、県外・海外から多くの人が訪れる賑わいに満ちた一年であったと感じております。

人口減少時代を迎え、これからの都市間競争を勝ち抜くためには、定住人口の維持に加え、交流人口をいかに拡大するかが鍵となります。当所では、公共交通の利便性向上と利用促進、まちなかの回遊性の向上が急務の課題であると考え、県庁通り・西川緑道公園の有効活用や、旭川周辺の魅力づくりを進めるミズベリング岡山旭川に関係機関と一体となって取り組み、中心市街地の魅力を高め、歩いて楽しいまちづくりを進めてまいります。

また、地方の中小・小規模企業においては今だ景気回復の実感が得られていない状況にあります。抱える諸課題に対し、行政や専門家等との連携を強化し、迅速で実効性のある経営支援に努め、力強い岡山経済、地場企業の安定成長の実現に努めてまいります。

どうか、岡山青年会議所におかれましては、高見理事長のもと将来の郷土岡山を牽引するなくてはならない団体としてより一層ご発展されますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



公益社団法人日本青年会議所
第66代 会頭

青木 照護

平素は公益社団法人日本青年会議所の活動に多大なるご協力を頂き誠にありがとうございます。謹んで新年のご挨拶申し上げます。

公益社団法人岡山青年会議所が本年度、高見宣哉理事長のリーダーシップの下で高い志を掲げ、青年会議所運動をスタートされたことに心より敬意を表します。

岡山青年会議所は1985年度に日本青年会議所第34代会頭として野津喬先輩をご輩出いただき、本年度は中国地区協議会会長の佐野範一君、JCブランディング会議議長の李大成君をはじめとする多くのメンバーにご出向いただいております。貴青年会議所と日本青年会議所が長年にわたり手を携え、共に歩んでこられたことに心から感謝申し上げます。

日本青年会議所は本年度「教育再生と経済再生による 誰もが夢を描ける日本への回帰」を基本理念に掲げ、唯一無二の政策立案実行集団として、全うな日本人を育成する主権者教育の推進や憲法改正、政府によるインフラ整備の後押しなどこの国が抱える多様な課題に取り組んでまいります。

「誰もが夢を描ける日本」を実現するには地域の再興が欠かせません。そのためには、各地域の課題、可能性、需要を把握して運動を展開することが求められます。日本青年会議所は、本年度、地域再興政策の立案に向けた支援策を充実させてまいりますので、地域再興のプラットフォームとして大いにご活用いただければ幸いです。

貴青年会議所が「自律したひとりづくりを通じて、誇りと自信を胸に郷土おかもやまのために活動し、まちとひとと岡山JCの未来への確かな一歩を踏み出す」ことにつながりますよう心からご期待申し上げます。

結びとなりますが岡山の街のさらなるご発展並びに先輩諸氏や現役会員の皆様にとって実り多き一年となりますことを心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感



公益社団法人日本青年会議所
中国地区協議会
第66代 会長

佐野 範一

新年あけましておめでとうございます。公益社団法人岡山青年会議所の特別会員・現役会員の皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、昨年は理事長として活動させていただきに際し、多大なるご尽力をいただき誠にありがとうございました。

2017年度は「為虎添翼～限界突破インテンション～」のスローガンの下、第67代高見宣哉理事長のスマートで卓越したリーダーシップに導かれ、新しい感受性と先見の感覚で拡張性の高い活動が行われ、「おかもやま」でもっとも存在意義のある団体であることはもちろんのこと、岡山青年会議所の価値が格段に高まることを確信しています。

岡山青年会議所から多数の出向者を輩出いただいております。公益社団法人日本青年会議所中国地区協議会は本年度「自立したまちと、人とひとが集う中国の実現」を目指します。古より交通の要衝として栄えた中国は、少子化・高齢化、大都市への人口流出、インフラ整備の遅れなど問題は山積みです。我々は、市民とともに地域資源を生かしたまちづくりを通して、ヒトやモノの往来を活性化させ需要を創出し、更にLOM間の交流と連携を通じて、地域のリーダーを育成することで自立したまちの実現に繋がります。自立したまちを達成した市民は、官民一体となって地域の魅力を再認識するとともに

に地域の問題と解決に対して連携した取り組みが創出され、さらに、我々が社会に貢献できる人材となることで誰もが夢を描ける日本の実現を目指して邁進して参ります。

結びとなりますが、中国地区協議会会長の輩出青年会議所として、更なるご支援とご協力をお願いさせていただくと共に、日本青年会議所創立以前より復興と創成を胸に活躍される歴史ある岡山青年会議所の皆様、その伝統と誇りを胸に本年度更なる発展を遂げ、為虎添翼のご活躍をされますことを心よりご祈念申し上げます。



公益社団法人日本青年会議所
中国地区岡山ブロック協議会
第53代 会長

太田 幸宏

新年明けましておめでとうございます。平素より岡山ブロック協議会に対し多大なるご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、公益社団法人岡山青年会議所の運動が、第67代理事長高見宣哉君のリーダーシップのもと、メンバーの皆さまとともに力強く拡張性のある活動をもって輝かしい一年となることをご祈念申し上げます。

さて、日本は、教育再生と経済再生の実現を目指し、日本人の「目に見えないモノ」を大切にしている価値観を世界に浸透することができれば、「新現代」という新たな時代を切り拓き、世界に恒久的な平和をもたらす救世主になることができると考えております。そして、近年日本ではサービス産業の占める割合が拡大しているが、元来、我が国はモノづくりを通して、消費者の暮らしだけでなく、人生という物語をも豊かにしてきたモノづくり大国でありました。今一度、一億総活躍社会の先にあるモノづくり大国日本の復活を世界に発信することで、クオリティ・オブ・ライフという「目に見えないモノ」を大切にしている暮らし方の必要性を訴えていかなければならないと考えております。だからこそ、2017年度岡山ブロック協議会といたしましては、「誰もが誇れるまちと豪傑たちが集う岡山の実現」をスローガンと掲げ、運動を展開して参ります。自らが住み暮らすまちを想う青年が一人でも多く増えれば、その地域の未来の発展につながり、有言実行を果たす青年が一人でも多く集えば、さらなる岡山の発展につながると確信しております。

岡山青年会議所は「為虎添翼～限界突破インテンション～」を2017年度スローガンに掲げられ、多くの栄光を築き上げられてきた軌跡がありながらも、さらなる挑戦を求めていく意思をもって、地域に必要とされる団体であり続けるために地域から岡山を岡山から日本を変えていく運動が展開されることを切に願い、新年のお祝いのあいさつとさせていただきます。今年1年間、どうぞ宜しくお願いいたします。

新春特別対談

岡山市長 大森 雅夫 × 第67代理事長 高見 宣哉



高見理事長:現在、岡山青年会議所では単独の活動だけではなく、「拡張性」をテーマに他団体との連携した動きを準備しているところなのですが、行政の立場から岡山青年会議所に対してどのようなポジションを期待されているのか、という事をまずお聞かせください。

大森市長:まず他の団体と一緒に何かをするにしても、目的が明らかでなければ拡散するだけではないかなと思います。例えば岡山青年会議所であれば「うらじゃ」がありますよね。ああいったイベントを、一からやり直すことによって世の中を変えていく。岡山に対する郷土意識や、桃太郎の新しい伝説を定着させていくという明確なコンセプトがある。そうした、はっきりとした目的を定めなければ、商工会議所やNPOをはじめとした他団体との連携も上手くいかないんじゃないかなと思いますね。

高見理事長:もちろんそうですね。目的やテーマはブレないように常に意識しています。

大森市長:ブレないというのは柱になる部分ですよね。それとともに具体的に何をしていくのか、明確なビジョンをつくっていただければいいんじゃないかな。

高見理事長:以前、ある会に出席した時に「都市格」というキーワードが気になったのですが、都市を形成する要素の中には「文化」や「まちづくり」など様々な視点がありますよね。その中で岡山青年会議所として何ができるのかを考えた時に、「子育て・教育」がスポットを当てやすいという事もあるのですが、出生率が減少していたり、晩婚化が進んでいる中で、何か一石を投じるために行政として現在考えられていることをお聞かせいただければと思います。

大森市長:これは個人的な話になるのですが、行政として「やるべきこと」と「必ずしもそうでない」ものは分かると思っています。否定するわけではないのですが、男女を集めたお見合い的なものを行政が、主催するのはどうかな？と考えます。もちろん成果が上がってれば良いのですが、それを推し進めていっても出生率を上げることにはつながら

ないと思っていますね。

我々が行政としてやるべきことは、結婚して子育てをしやすい環境づくり。岡山では「待機児童」の定義を見直したことをはじめ、保育の環境が大きく変わろうとしています。例えば岡山市が政令指定都市になった平成19年から、保育園に入りたいという人は毎年、約200人ずつ増加してきました。しかし、ここ2年間の保育のニーズは、約800人ずつ増えている。これはどういうことかと言うと、待機児童の定義を変えたり、保育料の見直しを行ったりと、私たちがメッセージを発信していくことで、これまで保育園に預けたくても預けられなかった人が手を挙げた結果なのだと思います。

「結婚して子供を産んでも働ける」ということになると、子どもが生きやすい環境になってきますよね。その結果、出生率も上がるし、女性の働きやすい環境づくりもつくられます。単純に待機児童を解消するだけではなく、様々な効果が出てくるので、そういったことも踏まえて行動することが行政の役割だと思っています。もちろん岡山青年会議所の立場で出生率を上げる動きをするのであれば、どんどんやってもらえばいいと思いますね。



高見理事長:先ほど平成19年から政令指定都市になったというお話がありましたが、都市の魅力という意味で言えば函館市が1位に選ばれていました。人口で言えば岡山市の半分以下、政令指定都市ではない都市が選ばれていますよね。神戸や京都のような、文化が蓄積されている観光地を凌駕していることを鑑みると、まちづくりをしていくうえで、今、



持っている条件だけでは勝負できないのではないかなと思うのですが。

大森市長:魅力度は必ずしも1位を目指す必要はないと思いますね。例えば首都圏近郊とか、近畿圏均衡の政令指定都市のほうが、むしろ魅力をアピールすることが難しくなります。一つ例を挙げると、政令指定都市でもある「堺」は大阪のなかのひとつの市という印象になっていて、自分たちの存在感をアピールするのはなかなか難しい。岡山にしても中四国の中心都市だから、ひとつの文化だけで物事は推し量れないですね。単体主義と複合主義みたいな違いがどうしても出てくるから、単体主義と一緒に土俵にはならない。だからと言って何もしなくていいかという訳ではない。経済であったり文化や歴史など、一つひとつのレベルを上げて、自らの文化を構築していくことを考えなければいけないと考えます。



高見理事長:今、お話を挙げた大都市圏ということであれば、「日本青年会議所」を中心として、東京一極集中を是正していきたいという動きが出てきています。しかし私個人の意見を言えば、一極集中がそこまでダメなのかなという疑問もあって、岡山市としてどのようにお考えなのかお聞かせいただければと思います。

大森市長:以前、東京一極集中をすると何が問題なのかを議論したことがあるんだけど、一体、何が問題だと思う？

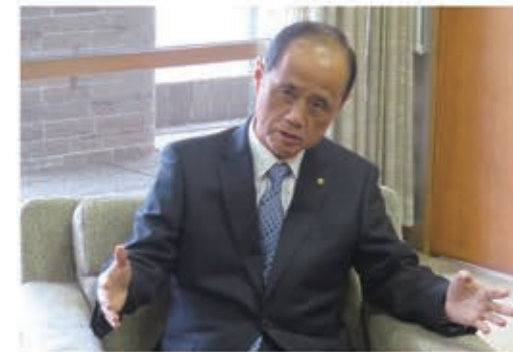
高見理事長:首都機能がすべて集中しているため、何かの災害であったり、トラブルがあった時に日本が機能しなくなるというか。そういう意味では私自身は問題であるのかなと思っています。

大森市長:そうですね。一つはおっしゃったように東京は非常に危険な場所に立地しています。富士山の噴火によって降り積もった火山灰土によってできていることに加えて、約三百年おきにプレート型の地震が起きている。非常に地殻というものが変化しやすい場所だから、本当に大きな地震があったらどうやってリスクをヘッジできるのか、ということがひとつ。

もうひとつは理屈がどこまで通っているのかということもあるのだけれど、新しい政策をやろうとしたときに、固定的になってしまい東京というシステムの中では新しい政策は生まれてこないんじゃないかという議論もあります。

また、富や人が集中しているという視点で言えば、東京23区と政令指定都市に住んでいる人の、地方債の債務残高を比較して分かるように大きな財力の差があります。一方、東

京の出生率を見てみると、全国平均を下回っている。こんな状態はおかしいよねという議論が生まれるのは当然ですね。このように、経済・金融など分野によっては一極集中することが必要だとは思いますが、出生率やリスク分散の観点から見ると、一極集中は良くないということになります。



高見理事長:また立地の面で言えば岡山は交通の要衝ですよね。そういった視点でのまちづくりで言えば、日本に暮らしている人だけではなく、外国から来る人にとっても交通の要衝になるメリットは打ち出していけないといけないかなって思うんです。

大森市長:まず交通の要衝というのは中四国で言えば確かにそうなのですが、岡山空港は完全なハブ化ができていないですね。いま羽田や成田でさえ、上海や仁川空港に負けそうになっている。そうした中で岡山は、世界の人間にとってハブ化しているわけではないですよね。だからこそ観光客も、もっとあの手この手で集めていかないといけない。そのために何ができるか一つひとつ考えていくことが重要だと思います。

私が市長になった時、まずやった事が後楽園と岡山城。以前はイベントなども別々に開催していたのですが、後楽園と岡山城は一体になって、はじめて他都市の観光地と差別化ができる。そのほかにも西川のイルミネーションや満月BARも素晴らしい試みだと思うので、具体的なことを仕掛けて、東京や大阪と比べた時に何が勝るのか。そういうことを考えていかないとダメだなと思いますね。

高見理事長:まちをどう活性化していくか具体論があったほうが良いという部分は、岡山青年会議所の立場からも理解できます。また青年会議所を構成するメンバーは中小企業の経営者であったり、それに準ずるメンバーであったりしますが、市長から見て、中小企業でかつ若手の経営者に対して思われていることはありますか。

大森市長:例えばコミュニティサイクルの「ももちゃり」が、日本でも有数の利用者数があるのかと言えば、平坦で雪が降らないからなんですよね。東京で同じ試みをしようとしても、坂が多いためどうしても障害になってしまう。しかし岡山では「観光」にも活かすことができるんです。

まちを盛り上げていくには、結局一つひとつの積み重ねが重要だと思います。岡山という文化のなかで、どうすればみんなの勢いが増していくのかを考えなければならぬ。岡山青年会議所の皆さんは若いので、コレだと思ったものに突っ込んでいくことも大切だろうし、あの手この手を使って皆さん、ぜひ頑張ってください。

事業年間告知

第4回キッズビジネスパーク ～「だれかのために！」で広げるおかやま～

本年度、開催4度目を迎える職業体験事業、キッズビジネスパークは高見理事長の掲げるスケラビリティ(拡張性)を意識した青年会議所活動の理念のもと、過去最大である1,000名の岡山市内小学3年生～6年生を対象に9月上旬に開催を予定しております。将来のおかやまにとって貴重な存在である子ども達が、職業体験を行い様々な職業を見て肌で触れることで、自分が思い描く未来や進みたい道、就きたい職業を考えていただく機会を提供することを目的とすると同時に、岡山青年会議所の事業としてだけではなく、本事業を軸に行政、他団体が混じり合うことで、郷土おかやまの拡張性がある、新たな子どものキャリア教育事業として本事業を実施してまいります。



うらじゃ

今年で、24回目を迎えるおかやまの夏の風物詩となっている「うらじゃ」。昨年は136の踊り連、6200名の踊り子にご参加いただきました。1994年に「共生と融和」をテーマに生まれた「うらじゃ」はこれまで数多くの市民の皆様にご参加いただき、ボランティアスタッフ、踊り連、多くの観客の皆様、岡山市内外の企業に支えられております。

本年も、岡山青年会議所は、うらじゃ実行委員会の総務部会として、また開催支援広告協賛募集事業という形で参画いたします。

本年も、参加される皆様や観客の皆様の思い出の1ページに残るよう、岡山青年会議所一同、一丸となって設営を致しますので、よろしくお願い申し上げます。



事業年間告知

スポーツ事業

2017年度の新事業として岡山市内の小学生1年生から3年生の子供たちを対象に、スポーツ事業の実施を予定しております。近年小学校では体育の授業数の減少に加え、少子高齢化、スポーツ種目の多様化、運動部入部率の低下等による体力・運動能力の低下が問題視されています。そこで子供たちに運動の習慣を根付かせ、スポーツの楽しさを体感してもらい、今後スポーツに積極的に参加し楽しく続けていくことができるようにすることを目的に、この事業を実施します。この岡山では近年サッカーのフジアノ岡山、バレーボールの岡山シーガルズが活躍しています。この岡山を代表する2チームと連携し、スポーツ教室やミニゲーム、レクリエーション、選手・参加者とのコミュニケーションを通してスポーツの楽しさを実感してもらい、今後スポーツを継続するきっかけを作ることで、健康で健やかな青少年の育成を目標といたします。そして同時に市民がスポーツに関心を持てるまちづくりに繋げてまいります。



講演会

■ 4月 ビジネスセミナー



元スターバックス最高経営責任者CEO講演会
「ミッション」
リーダーの原点に戻る
を開催します。

株式会社リーダーシップ
コンサルティング代表 講師：岩田 松雄

開催日時 平成29年4月25日(火) 18:30～20:30
【受付開始】18:00～ ■セミナー:70分 ■交流会:40分

開催場所 OKAYAMA MOVE UP CAFE
〒700-0825 岡山市北区田町1-2-4

参加対象 40歳までの方 参加費 2,000円